

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十一月度 入選句 (投稿総数三千四百三十三句・小中学投句数二千八百九十五句)

特選

選者 名和 よちゑ

王様の ような 顔した オスの 鹿 大垣市 仲井 心菜(小六)

鹿は秋の季語です。鹿を神の使いとする神社もあります。奈良公園で見かけた鹿でしょうか。鹿をよく観察しましたね。りっぱな角は王冠のようです。うるんだ目も大きく、鼻もしつかりしています。やさしい表情をしています。近づくと少し怖い感じもします。堂々としていてまるで王様のようなのだというのはうまい表現でした。

唐突に 金閣 現る 秋の 空 大垣市 矢橋 亮哉(小六)

修学旅行で京都の金閣寺に行かれたのですね。確かに入場して間もなく唐突にその黄金に輝く姿が目飛び込んできます。金閣寺を映す鏡湖池にも驚かされます。秋晴れの空の下、紅葉もさぞきれいだったことでしょう。印象深い良い思い出となりましたね。とても良い俳句ができました。

秋の葉は プテラノドンの 足あとだ 大垣市 吉田 湊祐(小四)

秋から冬にかけて落葉樹はすべて葉を落とします。プテラノドンの足あととは一体どんな形をしているのかな。ひととき大きなほお落葉、黄色があざやかないちよう落葉、まっかなかえで。葉っぱにも色々な色や形があり、想像がふくらみます。もつといっぱい探検してくださいね。恐竜博士。

秀逸

秋晴の空をつき刺す五重塔 大垣市 小宅 穂之香(小六)

秋の日を金閣寺の金はね返す 大垣市 和田 陸玖(小六)

ひがん花夕やけよりもりと赤 大垣市 神村 咲風(小四)

ぼくはねえこたつがあるねむくなる 大垣市 つげ ゆうり(小三)

まん月でおだんご一つきえていた 大垣市 小川 誠悟(小三)

お手つだいふやしてまつよクリスマス 大垣市 佐藤 莉子(小三)

ゆきだるま外から見てる君のこと 大垣市 久江 七夢(小三)

花びらが数えきれない菊の花 大垣市 大ぜき あやか(小三)

啄木鳥かカツカツカカカ木をたたく 大垣市 高垣 樹(小五)

さんまやくたけばしつかってさかさまに 大垣市 小崎 翔太(小五)

入選

あかとんぼゆうびんマークとんでくる 大垣市 田中 そうすけ(小二)
 かきをむくおれんじいろのネットレス 大垣市 ふじはら れんと(小二)
 ひがんばんなりぼんみたいにさいている 大垣市 かのう みみり(小二)
 教室で日なたをさがす秋の朝 大垣市 佐藤 駿(小三)
 つきみの日電きがいらぬあかるい日 大垣市 大橋 蓮(小三)
 冬の朝カーテン開けたら銀世界 大垣市 伊藤 るか(小三)
 わたり鳥ぼくの頭の上とおる 大垣市 まき原 一茶(小三)
 かえり道いねかりしてるいいにおい 大垣市 服部 溜花(小四)
 休み時間一年生が木の葉シャワー 大垣市 炭竈 玲亜(小四)
 さわやかな風と朝日でやる気です 大垣市 杉本 陽菜(小五)

入選

どんぐりでこまを作って勝負する 大垣市 世良 透也(小五)
 はし持って松たけご飯ねらってる 大垣市 高田 凱聖(小五)
 台風で電せん切れて火花散る 大垣市 清水 優斗(小五)
 猪がえさを求めにやって来る 大垣市 河合 清翔(小五)
 黄金の丸くて大きなお月さま 大垣市 香田 衣里奈(小五)
 冬の月静かに照らす夜の道 大垣市 伊藤 芽衣(小五)
 うんどろかいゴールテープをびりびりに 大垣市 小崎 翔太(小五)
 妹とおしろい花でおけしようだ 大垣市 伊藤 希彩(小五)
 いねのほが風にふかれてなみもよう 瑞穂市 馬淵 穂花(小五)
 柿のツヤマぶしいねえと祖母笑う 大垣市 平田 ひなの(中二)

選者吟

また一人丸まってゆく日向ぼこ

よちゑ